



はじめてのパリ、
もうひとつの
人生に出逢う

Une Estonienne à Paris
*Jeanne Moreau
 Laine Mägi Patrick Pineau
 a film by Ilmar Raag*
 ジャンヌ・モロー主演

クロワッサンで朝食を

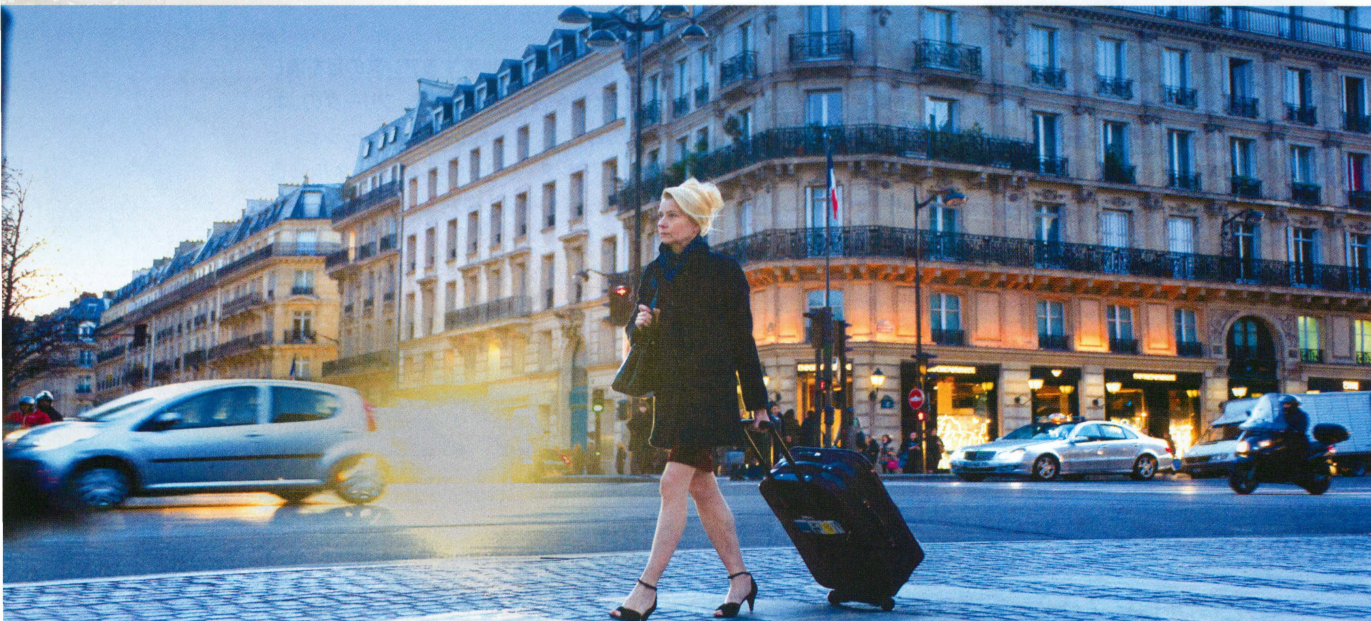
A Lady in Paris

(2012年ロカルノ国際映画祭 エキュメニカル賞受賞)

セテラ・インターナショナル創立25周年記念作品 監督:イルマル・ラーク 出演:ジャンヌ・モロー「死刑台のエレベーター」、ライネ・マギ、パトリック・ピノー
 原題:Une Estonienne à Paris / 2012 / フランス=エストニア=ベルギー / フランス語=エストニア語 / 95分 / ヴォイスタ / 日本語字幕:古田由紀子 / 協力:ユニフランス・フィルムズ / 配給:宣伝:セテラ・インターナショナル

TS Productions et Amion présentent. Jeanne Moreau, Laine Mägi, Patrick Pineau. Une Estonienne à Paris. Un film de Ilmar Raag. Avec François Beukelaers, Frédéric Epaud, Claudia Tagbo, Ira Ever, Helle Kuningas, Touu Mikiver, Helene Vannari
 Scénario: Ilmar Raag, Agnès Feuvre et Lise Macheboeu Image: Laurent Brunet - AFC Son: Pierre Metrens, Valène Leroy, Emmanuel de Boissieu Décors: Pascal Consigny Costumes: Ann Dunsford Montage: Anne-Laure Guégan Musique: Dec Mona. Casting: Brigitte Moldon - ARDA.
 Ter assistante réalisatrice: Juliette Maillard Scripte: Josiane Morand Régisseur général: Christophe Grandière, Directrice de production: Angéline Massoni Coproducteurs: Philippe Kauffmann, Adrien Politowski & Gilles Waterkeyn Produit par Miléna Poylo & Gilles Sacuto, Riina Siidus.
 Une coproduction France-Estonie-Belgique TS Productions, Amion Ou, La Partii Production en coproduction avec uFilm, en association avec uFund avec la participation de Canal +, Cine +, du Centre National du Cinéma et de l'Audiovisuel de la Fédération Wallonie-Bruxelles et de VOO Avec le soutien de Estonian Film Foundation, Estonian Cultural Endowment, Estonian Ministry of Culture, Media Programme of the European Union (Development-12) Avec l'aide du Centre du Cinéma et de l'Audiovisuel de la Fédération Wallonie-Bruxelles et de VOO Avec le soutien du Tax Shelter du gouvernement fédéral de Belgique et des investisseurs Tax Shelter

www.cetera.co.jp/croissant



憧れのパリにやって来た家政婦と裕福だが孤独な老婦人。境遇の違う2人が、生きる喜びを見つけるまでの心温まる実話

はじめてパリにやって来た家政婦アンヌと、裕福だが孤独な老婦人フリーダ。
住む世界の違う2人が出逢い、再び人生が微笑み始める——。

心の奥に温かな灯をそっと点す感動の実話。

2人の女優の真摯な演技に
心動かされる

——ル・モンド紙

シンプルで緻密な演出、
そして神々しいまでのジャンヌ・モロー!

——テレマ誌

ヨーロッパ各国で熱い注目を集める、エストニアの新鋭イルマル・ラウグ監督。ロカルノ国際映画祭でエキュメニカル賞を受賞した本作は、フランスの名立たるマスコミも絶賛。静かな感動の輪が今、海を越えて日本に届く——。エストニアで母を看取ったばかりのアンヌに、パリで家政婦の仕事が舞い込む。心機一転、憧れのパリへ旅立つが、彼女を待ち受けていたのは、高級アパートマンに独りで暮らす、気難しい老婦人フリーダだった。実は雇い主はカフェを経営するステファンで、家政婦など求めているフリーダは、アンヌを冷たく追い返そうとするが…。大人のおとぎ話のような設定に見えて、リアルな感情に胸を揺さぶられるのは、監督の母の実話を基にした物語だから。人生の転機に、新たな世界へ踏み出す勇気をくれる、優しい力に満ちた感動作が誕生した。

その存在が、その生き方が〈伝説〉——

自由と芸術の国フランスの象徴、ジャンヌ・モロー主演

老婦人フリーダを演じるのは、フランス映画界の至宝ジャンヌ・モロー。ルイ・マル、フランソワ・トリュフォーなど名監督たちの傑作に出演。自由奔放で信念を持った新しい女性像を演じ、時代の寵児となった。85歳で久しぶりの主演となる本作では、自身の生き様を注ぎこんだ圧巻の演技で魅了。一方、家政婦アンヌ役は、エストニアの個性派女優ライネ・マギ。結婚と離婚、子育てと母の看病に追われ、人生も半ばを過ぎて、抜け殻になったアンヌ。そんな彼女が、パリで好奇心に満ちた少女の瞳を取り戻し、もうひとつの人生と出逢うその姿は、今を懸命に生きる私たちの、深い共感を誘う。

エッフェル塔、凱旋門、カフェにクロワッサン、そしてシャネル——
永遠の憧れの都パリの素顔

本作のもう一人の主人公、それはパリ。夜ごと街を散策するアンヌの目を通して、観光客には決して見せないパリの素顔を覗くことができる。フリーダの、本物のパリジェンヌの暮らしも見どころのひとつ。彼女のシャネルファッションはすべて、ココ・シャネルと親交があったジャンヌ・モローの私物。シャネルの自宅にあったコロマンデル風の屏風や60年代の手縫いのイヴ・サンローランのカーテンなど優雅なインテリアも必見。



クロワッサンで朝食を

2012年ロカルノ国際映画祭 エキュメニカル賞受賞
セテラ インターナショナル 創立25周年記念作品

監督・脚本：イルマル・ラウグ/出演：ジャンヌ・モロー「死刑台のエレベーター」、ライネ・マギ、ハトリック・ピノー
共同脚本：アリエス・フォーヴル、リーズ・マシュブ/撮影：ローラン・ブリュネ/衣裳：アン・ダンスフォード/美術：パスカル・コンシニ
音楽：Dez Mona、ジョー・ダッサン「メランコリーというのなら」/原題：Une Estonienne à Paris/2012/フランス=エストニア=ベルギー
フランス語・エストニア語/95分/ヴィスタ/日本語字幕：古田由紀子/配給・宣伝：セテラ・インターナショナル/協力：ユニフランス・フィルムズ
www.cetera.co.jp/croissant/



ジャンヌ・モロー追悼上映
9月2日(土)～9月15日(金)

キネマ旬報シアター